

[報 告]

## 2007年国際剣道・居合道・杖道講習会報告

大坪 壽\*

### A report on International Kendo, Iaido, and Jodo Seminar in 2007

Hisashi OTSUBO\*

#### 1 はじめに

2007年度九州共立大学の海外研究費の支給を受け、海外出張として参加したイタリア剣道連盟寒稽古、国際剣道・居合道・杖道講習会について報告するものである。

ヨーロッパにおける剣道を中心とした冬期講習会は2007年で第16回を迎えるが、本研究紀要第1号で紹介した通り、筆者は1998年から講習会講師として剣道の国際的普及に携わっている。

今回の講習会の特徴は、本学剣道部員が3名参加し、講習の補助を務めると共に自分自身の修練に努めたことである。

#### 2 国際剣道・居合道・杖道講習会の歴史

前述した通り冬期講習会は2007年で16回を迎えるが、欧州冬期剣道講習会として発足し、筆者は1998年から関わっている。2003年から国際剣道・居合道講習会となり、さらに2005年から杖道が加わった。また同時に開催されていた中倉旗剣道大会も国際親善剣道選手権大会に名称変更された。この講習会はベルギー・ブリュッセル市をメインの講習地にし、2002年はイタリア・ベルガモ市、2004年はイタリア・パレーゼ市での講習会を開催した。夏期講習会は毎年行われていたわけではなく、筆者は1999年イタリア・ピゼンツァ市、2005年、2006年のスウェーデン・マルム市およびベルギー・ブリュッセル市での講習会を

経験した。

本講習会講師は、ヨーロッパ剣道連盟会長アラン・デカルメ、同事務局長ラルフ・ベルナルからの招聘であるが、その窓口になっているのが寛容と奉仕をスローガンとしているNPO法人国際社会人剣道クラブである。この団体は剣道の国際的普及に最も早くから取り組み、現在の世界剣道選手権大会につながる大会を作り上げた団体である。

#### 3 イタリア剣道連盟寒稽古

2007年度イタリア剣道連盟寒稽古がイタリア中部のフェラーラ市の中心部のボスケート・ギムナジウムで12月7日から9日の3日間開催された。講習会場の体育館の掲示や飾られているトロフィー類からハンドボールが盛んな土地柄のようである。

講習は約300名が参加し、剣道と居合道のコースで行われた。現在イタリアには七段3名、六段6名（うち女性1名）の9名の高段者がリードし、愛好者も年々増加傾向にある。今回も無段者および初段が50名以上の参加であった。

受講は非常に意欲的で真摯な態度で、これからの順調な成長とイタリア剣道連盟の発展が期待されるものであった。

#### 4 国際剣道・居合道・杖道講習会

2007年講習会は、12月14日(金)から16日(日)の3

\*九州共立大学スポーツ学部

\*Kyushu Kyoritsu University Faculty of Sports Science

日間ベルギー・ブリュッセルのADEPSスポーツセンターで開催された。本年は前述の通りスポーツ学部1年の小田修平、脇田裕介、松枝吏視の3名がイタリア剣道連盟寒稽古に引き続き参加し、アシスタントを務め国際交流に尽力した。

参加国はギリシャ、イタリア、ポルトガル、スペイン、スイス、フランス、オランダ、ドイツ、ルクセンブルク、イギリス、アイルランド、イスラエル、スロベニア、スウェーデン、フィンランド、ノルウェー、デンマーク、トルコ、ロシア、ベルギー、在欧の韓国人と日本人、初参加のアフリカ・モザンビークの23カ国、500名の多数な参加であった。

剣道、居合道、杖道とも真摯な受講態度の受講生をレベルに合わせ、初級、上級にクラス分けをするなどし、懇切丁寧あるいは的確な指導で目覚ましい上達を示し、今後の上達が楽しみである。

最終日には、女子個人戦、男女混合のオープン個人戦、団体戦の第6回国際親善剣道選手権大会が開催された。大会の成績は以下の通りであった。

#### 女子個人戦

- 優勝 リサ・ヴァンラーケン (ベルギー)
- 2位 キサ・ミヤハラ (オランダ)
- 3位 デ・ブルネル (フランス)
- 3位 ラドルフ・ラッセル (ベルギー)

#### オープン個人戦

- 優勝 ウェズリー・ハーク (ベルギー)
- 2位 ペーター・ドント (ベルギー)
- 3位 リナルト・ダニエル (フィンランド)
- 3位 ミヤタケ (イギリス)

#### 団体戦

- 優勝 ゲント・ハーク (ベルギー)
- 2位 JKCFフォンテネ (フランス)
- 3位 ロンドン (イギリス)
- 3位 明武館 (ベルギー)

## 5 終わりに

今回は前述のとおり本学剣道部員が初めて参加し、講習会や大会のアシスタントを務めながら、自己の修練に励み併せて国際交流に尽力したのが特筆されるどころである。

毎回の講習で感じることであるが、受講生の真摯な態度には頭が下がる思いがする、ますますヨーロッパはじめ各地の剣道が正しく普及・発展し、隆盛になる

ことを願っている。

